

奥様探偵術

夢野久作

青空文庫

あるところに一人のオクサマがありました。

その奥様は次のような場合に、キツト御主人に喰ってかかられました。胸倉を取って小突きまわされました。「もう出て行く」と紋切型を云われました。引っくり返って足をバタバタされました……かも知れませんでした。

……御主人のお帰りが晚い時……
おそ

……御主人の身体か、持物か、お召物のどこかが酒臭い時……
からだ

……会社に電話をかけて、出張が嘘だとわかった時……

……料理屋の勘定書が袂や紙屑籠から出て来た時……
たもと

……女の手紙か、又は、女の手らしい男名前の手紙が来た時……

：

……近所の行きつけの床屋で髪を苅られなかった時……

……会社の近くのタクシーで帰られなかった時……

……どこかに女の髪かみのけ毛がくつついていた場合（御自分のかも

知れないと思われた時でも念のため）……

……御主人の着物に、新しい、違った畳み目が付いていたとき

……

……御主人が忘れ物を発見しながら、強しいて探そうとされなか

った時……

……お帰りになると、すぐに御主人がグーグーとお寝みになつ

た時……

……違つた香水のにおいがする時……

……鼻紙やハンカチがお出かけの時のと違つていた場合……

……履物にキレイな砂がついていた場合……エトセトラ……エトセトラ……

ところが或る時のこと、オクサマがお友達の若い未亡人を訪問されました序に、この話をされまして「主人はイクラ打つても小突いても平気なのですよ。まるで良心のない人間みたようにニコニコしているものですから、あたしは、なおの事腹が立つて腹が立つて……」とサンザンに泣いて訴えられますと、未亡人はつましやかに溜め息を洩らしながらコンナ忠告をされました。

「それは貴女が男の方の気持ち^{あなた}をまだホントウに御存じないから

ですよ。お話の通りならば、あなたの御主人様は、まだ一度も茶屋遊びをなすった事がありにならないのですよ。ただ貴女からの小突かれあんばいが、何ともいえずよくてよくてたまらないでおいでになるので、わざと手をかえ品をかえて、そんな風を装って、あなたを挑発しておいでになるのですよ。ですから、あなたはソナ意味でやつぱり御主人に欺されておいでになるのですよ」

オクサマは開いた口が塞がりませんでした。そうして一層ヒス気分を高潮させながら、

「人を馬鹿にしている。そんなら主人に思い知らせてやる。相手をなくして困らせてやる。そうして今までのカタキを取ってやる」と仰言おっしゃって、未亡人が止められるのも聞かずに無理やりに離

婚の手續きをしてしまわれました。

前の御主人が、その忠告をされた未亡人と正式に結婚をされたのは、それから間もなくの事でした。それを御覧になった前の奥様はフンガイされまいことか、土けむりを蹴立てて怒鳴り込まれましたが、もはやアト、ノ、マツリでした。シツカリ者の未亡人に何の苦もなく撃退されてしまいました。

前の御主人と未亡人とはズツト前から方々で出会っておられた……そうしてその証跡をかくすために御主人は待合に泊ったように見せかけておられた……しかも、それは未亡人の入れ智恵であった……という事が判明したのも、やはり、それから間もなくの事でした。



あるところに一人のマダムが居おられました。

そのマダムは、その御主人と共に、社交界でも飛び切りにリ
フアインされた、押しも押されもせぬカプルと評価づけられてお
りましたが、それだけにその御主人が隠れ遊びをされる方法とて
も、実にリフアインされたものでした。無二の親友と称する人々
でも、そんな事実を知らなかった位で、如何なる名探偵でも、そ
の証拠を指摘するのは困難であろうと思われるくらいでした。

ところが、そのマダムばかりは、いつも、たやすくその事実を看破しておられました。

マダムは新聞や雑誌をよく読んで、時代に対するアラユル理解力を奮^{ふる}つておられました。そうして現代がスピードとエロの時代である事を、飲み込み過ぎるほど、のみこんでおられました。

……遊廓や待合や、又は御神燈なぞいうものは、もはや明治大正時代の遺物となりかけている……

……バーや、カフェーや、パーラー、レストランなんぞは勿論のこと、クラブ、ホール、ホテル、なんども申すまでもない事、そのほかの思いもかけぬまじめな商売の名の下に、エロ業者は堂々と、白昼の街頭に進出している……

……同時に個人としては、外交員、勧誘員、施術師、写真師、画家、筆耕、家政婦、派出婦、看護婦、なんぞの怪しげな名刺や印刷物、もしくは本物のタイプライターや爪つめやすり鑢さなどを提さげて、官庁や会社は勿論のこと、普通の家庭にまでも侵入している……
……スピード的エロ業振りのアラユル尖端を、一九三〇式に磨き立てている……

……だから現代の頭のいい……たとえばマダムの御主人のような男性は、百のアリバイでも同時に作る事が出来る……

……たとえば会社へ、主人の出張先を問い合わせても「よくわかりません」という快濶な給仕の返事しか聞かれない……

……よしんば、うちの自動車の運転手にきいても何にもならな

い。主人の行先を洩らさない事が運転手のたしなみの第一ぐらいの事はトツクの昔から心得ているにきまっている……

……つまり現代のエロ機関の精鋭さは、現代の男女性全体の頭のヨサを超越して行きつつある……日に日にシカゴ化し……巴里^{パリ}化しつつある……

という事をマダムはハッキリと感じておられました。

ですからマダムは昔風の指紋や足跡式の探偵を応用して、主人のポケットや袂を探るようなヤボな手段を決して採られませんでした。そうして最もあたらしい……恐らく未来の探偵界を支配するであろうところの心理的な探偵方法……所謂^{いわゆる}第三等の訊問法以上に合理的な、且^かつ高等な訊問方法を用いて、御主人の隠れ遊

びの有無を一々の確に探知されるのでした。

すなわちマダムは、もつとも優れたる心理表現の觀察者たるべく、その基礎的練習をはじめられました。

ところで、すべての場合に於て、探偵が嫌疑者もしくは犯人に對して或る感情を持つ……憎んだり、同情をしたりするという事が、その觀察や判断をあやまつ根本原因となるであろう事は申すまでもありません。一般の御婦人方は何よりも先にこの意味において、その御良人^{おつれあい}の性行の公明なる審判者たる資格を喪失しておられるので、そのために、いつも、正義と純愛の高潮さるべき場面を、犬も喰わない水掛論や、猫まで逃げ出す家庭争議の場面と化して行かれつつある事はまことに是非もない次第と申^{もうしあ}上ぐ

べきでありましょう。

この辺の機微に通じておられましたマダムは、ですからまず御主人に惚れる事を中止されました。つまり御主人にどのような親切にされてもポーツとならず、ドンナに御機嫌を取られてもスツカリ嬉しがない稽古をされました。これはマダムにとっては最も困難なお稽古と考えられておりましたが、それでもとうとう一生懸命で成功されました。いつもスマアして、ニコニコした、しなやかな心で御主人を迎えられるようになりました。

ところでマダムの御主人は、いつも夕方の五時ごろ（それは御主人のリファインされたアタマで撰定された、最も適当と認められる時間）にお帰りになるのですが、出迎えられたマダムは、

いつも待合の仲居か、ホテルのボーイのように無感激に……しかも上品にスラスラと御主人の身のまわりのお世話をされました。そうして御主人からのお尋ねがないかぎり、クダクダしい家事向きの事なぞはコレンバカリも話されずに、やはりニコニコしながら夕飯の御膳にさし向われるのでした。

その間にはタツタ一つの技巧しかありませんでした。

……スマアしてニコニコしている……という無技巧の技巧……マダムはうしろ暗いところがないだけに、この無技巧の技巧を、御主人よりもイクラか楽につとめられるのでした。

しかもそこが又タツタ一つのマダムのつけ目なのでした。

御主人はもとより、心にうしろ暗いところのある時に限って、

特別に御自身一流の無技巧の技巧を装うてお帰りになるのですが、それでもマダムの無技巧の技巧に対しては、いつもチョツトの違いで勝ち目を譲られるのでした。

……ハテナ……感付いているのかしらん……いないのかしらん……

と考えられるだけでも御主人は著しい引け目を感じられるのでした。そうして、その引け目を蔽いかくすべく、御主人は色々な技巧を弄ろうされるのでしたが、弄すれば弄するほど技巧が技巧らしく見え透すいて来そうになる事を、御主人はオツムがクリヤなだけそれだけクリヤに感じられるのでした。しかも御主人としては、それを是非とも蔽いかくさねばならぬ立場になっておられるだけ、

それだけにイヨイヨ技巧の破綻をあらわされることになるのでした。

……時々、他家^{よそ}へ行つたような気持ちになつて、鼻の頭を撫でたくなつたり……

……妙なところで咳払いが出かつたり……

……留守中の出来事を尋ねられる言葉づかいや声の調子が、どうしてもわざとらしい切り口上になりかけたり……

……マダムのお話をきかれる態度や、相槌の打ち方が、いつもよりもすこし熱心過ぎたり……

……お茶碗を差し出しながら、思わず態度を勿体ぶつたり……
……「ああ美味^{おい}かつた」という言葉のおしまいだが、いつも

よりも心もち感傷的に響いたり……ETC……ETC……

マダムは、しかしそれでも、やっぱりスマアして、ニコニコしておられるのでした。それでいてこうした御主人の心理的な変化を、極めて隅々のデリケートなところまで見逃がさずに見て取られるのでした。そうして、その冷静な、すきとおった判断にかけて、イヨイヨ間違いないと思われる、やっぱりスマアしてニコニコしたままお膳を下げて、お湯に這^{はい}入られるのでした。

マダムの湯上りのお化粧は、そんな晩に限って特別に濃厚に、一種の暗示的な技巧を凝^こらして仕上げられるのでした。そうして御主人に内証で買われたスバラシク派手な着物とか、帯とか、上等の装身具なんどの中^{うち}の一つか二つかをこれ見よがしに身に着け

て、やはり無技巧の技巧を冴えかえらせながら、無言のまま、ニコニコと御主人の前に出て、美味しいお茶を入れられるのでした。実は泣きたいような御主人の笑い顔をホノボノと見返されるのでした。そうして疲れておられる御主人を、もう決してほかの女とは遊ばないと決心させるほど……それほど徹底的にニコニコ責めに責め上げられるのでした。

こうした技巧を凡そ四五遍もくり返して行かれるうちに、マダムはどうとうその御主人を完全に征服してしまわれました。無技巧の愛を百パーセントに占領されることになりました。

けれどもその御主人は、それから二三年経つうちに神経衰弱にかかって世を早められましたので、マダムは賢夫人の名の下に沢

山の財産を受け嗣がれる事になりました。

マダムはこのごろ、こんな事を考えられるようになってきました。
「妾^{わたし}のせいじゃなかったか知らん。男つてものは時々他所^{よそ}へ泊らせないと、いけないものかも知れない」……と……。



ある処に一人のフラウがありました。

その御主人は有名な遊び屋で、お二人のアパートに帰られる事は三日に一度ぐらいしかないのでしたが、それでいてお二人の間

はトテモ、シツクリとした甘ったるいものでした。否、むしろフラウの方がオツカナ、ビツクリ仕掛けで、御主人の機嫌を取り取り送り迎えをしておられるように見えました。

この事はむろんこのアパートの七不思議の一つに数えられているのでしたが、或る時、お隣りのミセスがチョットしたものを借りに来た序に、^{っいで}さり気なくこのことを尋ねてみますと、フラウはみるみる首のつけねまで真赤になりながら、うつ向き勝ちにこう答えられるのでした。

「主人はわたくし達の結婚式の晩から、もうどこかへ消え失せて行くのでした。そうして帰つて来た時はいつでも二日酔いをして、妾に介抱ばかりさせるのでした。

妾はこうした主人の大ビラな仕打ちに対して長いあいだ何事も申しませんでした。妾は主人よりほかに男の方を存じませんでしたので、もしかしたら妾がわるいのじゃないかしらんと思つて、心をつくして仕えましたが、それでも、どうしても主人の他所^{よそ}泊りが止みませんでした。

そのうちに妾のそうしたウツプンが、とうとう破裂する時が来ました。妾はその時にキチガイのように喋^{しゃべ}りつづけました。洪^{おみず}水のように涙を流しながら、今までの主人の横暴を一々数え上げて行きましたが、そのうちにとうとう口が利けなくなつて、ベツドの上に突伏^{つっふ}しますと、それまで黙つて聞いておりました主人は、やがてタツタ一こと申しました。

「お前の云い分はそれだけか」

妾は口の中で「ハイ」と答えながら涙の顔を上げました。すると主人はその妾の横頬をイキナリ眼も眩くらむほどハタキつけました。

……スパ——ン……と……。

そうしてそのまんま、どこかへ泊りに行きました。

妾は、それからというものホントウに無条件で、身も心も主人に捧げるようになりました。

……ホントウニ男らしい……」

フラウの眼に、涙が一パイに浮き上がりました。

青空文庫情報

底本：「夢野久作全集3」ちくま文庫、筑摩書房

1992（平成4）年8月24日第1刷発行

入力：柴田卓治

校正：江村秀之

2000年7月4日公開

2006年3月6日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.waozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

奥様探偵術

夢野久作

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>